

協議主題 1 (概要)

協議主題 「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」における議論等を踏まえ、幼児教育の質に関する認識の共有、家庭や地域との連携の在り方について	(協議の観点) ①“よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る”という目標を各施設と社会が共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を子供たちに育む「社会に開かれた教育課程」を実現していくため、幼児教育の質に関して社会との認識の共有を図り、地域や家庭との関係においても連携を強化していくためには、どのような取組や工夫が考えられるか。
--	--

1 提案の概要

【廿日市市立宮島幼稚園の提案】

(1) 研究主題

「主体的に遊び、考え、工夫する力を育てる保育のあり方」

集団遊びを通して、クラスや異年齢の友達とのつながりを深め、自ら考え遊びこむ力を育てる。

(2) 提案の概要

子供達一人一人が小学校生活で自己発揮し、深い学びや主体的な生活態度の基礎を養い、家庭地域においても、自分で考え、人と関わったり行動したりできるようにとの思いをもって保育を実践してきた。子供達の発達課題から、集団遊びのねらいと計画を明確にして、継続的、発展的に取り組んできたことで、子供達の中に集団遊びが浸透し、自発的に遊びが始まり、繰り返し遊びながら、相談したり工夫したりしながら遊びを楽しくする姿が見られた。集団遊びの取組は、人と関わる力や、考え工夫し、主体的に行動する力を育てていくことが分かった。また、幼稚園生活のみならず、地域・家庭とのつながりや小学校への接続もより意識していくことが大切である。子供達の学びが小学校以降の生活や学習につながっていくよう、地域とのつながりを大切にしながら、連携を行っていききたい。

2 質疑応答

○ 集団遊びに着目した理由は何か。

- ・大きな行事が入ったことにより、集団遊びを継続してできなかったという反省があったため。また、子供達の「考える力」がまだ十分に育っていないのではないかと感じ、集団遊びを継続して取り組むことで、考える力の育ちにもつながるのではないかと考えたため。

○ 子供達は新しい遊びを創作したことがあるのか。

- ・「だいくとおにろく鬼ごっこ」や「宇宙人鬼ごっこ」などの色々な集団遊びをすることで、日頃の遊びの中で子供たちから新しい鬼ごっこができています。

3 協議内容(グループ協議, 全体共有)

(1) 全体共有

- ・地域の社会福祉協議会や女性会、老人会等、外部の自治体のコーディネーター役を見つけることが大切である。また、地域への子育て支援、家庭支援においても園所が重要な役割を担っている。

る。

- ・園の目標や教育課程，保育内容を地域に発信し，地域に園を理解してもらうことと同時に，保護者も巻き込んでいくことで，園の保育の質が高まっていく。

(2) 指導助言

家庭や地域との連携に関して、「遊びを通して学ぶ」という幼児期の特性が共有できているか。また，教育の機会が十分に保障されていない子供や家庭への支援ができているかということが課題とされている。また，家庭や地域との関わりは，「幼児教育の質」を考える上でも重要なことであり，子供の声を聴くこと，気持ちを知らうとして意味づけていくことが大切である。園・所は，地域にとって幼児教育センターとしての役割，また，保護者にとっては安心できる家としての役割を担っている。

4 結論

- 地域とのつながりを大切にした交流，連携を行うことは，小学校生活で自己発揮し，深い学びや主体的な生活態度の基礎を養い，家庭や地域においても，自分で考え，人と関わったり行動したりするなど，小学校以降の生活や学習につながっていく。
- 家庭・地域における幼児教育の支援として，保護者等に対する学習機会・情報の提供，関係機関相互の連携強化，幼児教育施設における子育て支援の促進等が挙げられる。
- 見えにくい幼児教育の意義や価値を共有する工夫により，「社会に開かれた幼児教育カリキュラム」を実現できる。園・所は，地域に根差す実践を積み重ね，そのことを地域に開くことにより，地域にとって幼児教育センターとしての役割，また，保護者にとって安心できる家としての重要な役割を果たすことになる。